

まちづくり交付金 事後評価シート
安城桜井駅周辺地区

平成20年12月

愛知県安城市

様式2 - 1 評価結果のまとめ

都道府県名	愛知県		市町村名	安城市	地区名	安城桜井駅周辺地区			面積	130.2ha			
	平成16年度～20年度		事後評価実施時期	平成20年度	交付対象事業費	3,707百万円	国費率	0.378					
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	公園(2号、3号公園)、下水管(雨水管)、高質空間形成施設(西徳用水上部)、高次都市施設(桜井複合福祉施設)、土地区画整理事業(安城桜井駅周辺地区)										
		提案事業	老人福祉センター、子育て支援センター、保育園、専門家派遣及びワークショップ運営費										
	当初計画から削除した事業	基幹事業	8号公園、1号緑地、緑化施設整備(街路2路線)			区画整理の進捗に伴い、期間内の整備を取りやめた、鉄道高架事業の遅れにより、用地が作業ヤードとして必要であったため整備を取りやめた、区画整理の進捗に伴い、期間内の街路の整備が不可能となったため整備を取りやめた			影響なし				
		提案事業	なし										
	新たに追加した事業	基幹事業	堀内公園、5号公園、高架下自転車駐車場、公衆用トイレ			碧海堀内駅(現:堀内公園駅)および堀内公園の整備にあわせ追加(基幹事業は公園部分)、快適に暮らせる生活環境創出のため整備を追加、関連事業(街路)の進捗により、整備が可能となったため追加			影響なし				
		提案事業	身体障害者デイサービスセンター、複合福祉施設関連事業、新設小学校関連事業、堀内公園改築関連			厚労省の国庫補助の採択困難により、関連事業から提案事業へ変更したことによる追加、施設の外構工事を行う必要が生じたため追加、小学校を新設するため追加、碧海堀内駅(現:堀内公園駅)及び堀内公園の整備にあわせ追加			影響なし				
	交付期間の変更	当初	平成16年度～20年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響								
		変更	平成 年度～ 年度										
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
				基準年度		目標年度	モニタリング	評価値					
	指標1	福祉拠点周辺のバリアフリー化	km	0	H16	1.6	H20		1.6	○	あり なし	区画整理事業の進捗に伴い、福祉施設周辺の道路整備が順調に進み、バリアフリー化された道路が増加した。	平成21年6月
	指標2	鉄道駅の利便性	人/日	3,600	H16	3,700	H20		4,357	○	あり なし	駅周辺の整備による効果がまちとしての魅力を高め、定住人口の増加や駅利用者数の増加にも貢献した。	平成23年1月
	指標3	複合福祉施設の充足度	km/人	7.9	H16	1.9	H20		1.6	○	あり なし	今までは、地区から離れていた地域の交流施設が、複合福祉施設の完成によって、より身近な施設となり、移動距離の低減に繋がった。	平成21年6月
	指標4										あり なし		
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
				基準年度		目標年度	モニタリング	評価値					
	その他の数値指標1												
	その他の数値指標2												
4)定性的な効果発現状況	・複合福祉施設の建設により、高齢者、身体障害者などの福祉関係者や福祉団体に各種の福祉サービスや活動の場の提供が可能となり、地域住民、福祉センターを利用する高齢者や身体障害者、保育園など年齢や身体の状態に関係なく利用者の交流が図られるようになった。また、地域活動支援事業、高齢者・身体障害者などを対象とした講座も実施し、地域福祉活動の拠点が形成された。 ・地区を縦断する鉄道の高架化により、交通の利便性、歩行者等の交通安全性が図られた。 ・少人数学級編成の教育体制のもと、耐震化された小学校の開設により、安全な教育環境が確保でき、生活環境の改善が図られた。												
5)実施過程の評価	実施内容				実施状況				今後の対応方針等				
	モニタリング	なし			都市再生整備計画に記載し、実施できた								
					都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した								
					都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった								
	住民参加プロセス				都市再生整備計画に記載し、実施できた				●	今後も、まちづくり委員会は課題の検討・提案、イベント等の支援、「まちづくりだより」の発行など継続して行う。また、住民による自主的な運営により継続していくことなど既存の組織の活用や連携などを考慮し、住民参加による新しい組織作りを検討していく。			
					都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した								
持続的なまちづくり体制の構築				都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									
				都市再生整備計画に記載し、実施できた				●					
				都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した					今後も、まちづくり委員会での取り組み内容は継続し、まちづくり部会では、既存の組織の活用や連携などを考慮した新しい組織作りを検討し確立していく。住民参加によるまちづくり活動の成果から、将来的には部会員(住民)が自らまちづくりの担い手となり、組織に対する支援策を検討するとともに組織の自主運営を進める。				
				都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									

様式2-2 地区の概要

安城桜井駅周辺地区（愛知県安城市）まちづくり交付金の成果概要								
まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標：福祉環境が充実し、誰もが快適に暮らせる南部地域の拠点再生 目標1：ユニバーサルデザインに配慮した公共施設整備により快適な生活環境を創出し、定住人口の増進を目指す。 目標2：鉄道高架化及び街路等の整備改善により交通アクセス利便性、歩行者等の交通安全性の向上を図り、市民交流の促進を目指す。 目標3：南部地域の核となる駅周辺に、複合福祉施設を整備し、多世代の市民が快適に暮らせる地区として再生を図る。	福祉拠点周辺のバリアフリー化	単位：km	0	H16	1.6	H20	1.6	H20
	鉄道駅の利便性	単位：人/日	3,600	H16	3,700	H20	4,357	H20
	複合福祉施設の充足度	単位：km/人	7.9	H16	1.9	H20	1.6	H20



桜井小学校の新設



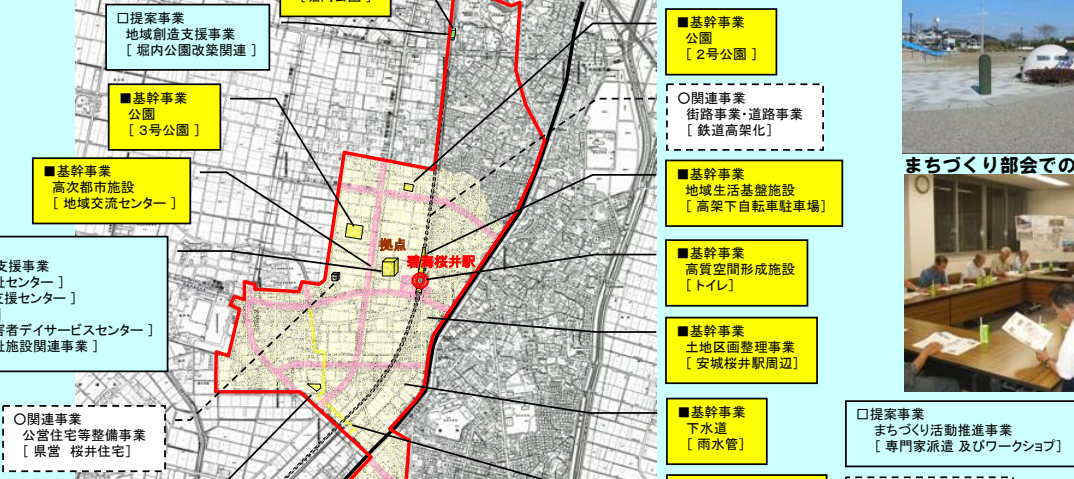
複合福祉施設の開設



バリアフリー化された堀内公園駅



公園づくりのワークショップの様子



2号 (ふれあい城西) 公園の新設

まちづくり部会での検討の様子

歩道の広い道路の整備

まちの課題の変化	・区画整理事業の進捗により、基盤整備が進み、土地利用についても秩序ある整理がされつつある。 ・鉄道の高架化により、東西の地域分断も解消された。 ・小学校新設したことで1クラスあたりの児童数の適正化が図られ、良好な教育体制が築かれた。 ・耐震化された小学校を新設し、安全な教育環境が創出された。 ・複合福祉施設の開設により、地区住民のみならず、地区外からも市民が訪れ、安城市南部の福祉拠点が創出されつつある。 ・公園4箇所の整備により、地区内の市民交流施設が創出された。
今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)	■ 交流空間の継続利用 ・交流空間(公園等)を設置するだけでなく、交流空間の愛着度を高め、地元主体の継続的な利用を目指す。 ■ 地域の社会福祉の推進 ・完成した複合福祉施設を拠点とし、地元組織が主体となり、社会福祉の推進・啓発活動を継続的に行っていく。 ■ 地区内定住人口の更なる増進 ・公共施設及び交通基盤整備といった生活環境の改善を図り、魅力あるまちづくりを進める。 ■ 新設小学校周辺の安全・安心の向上 ・安全で快適に過ごすことができる教育環境の整備を行う。 ■ 地域コミュニティの活性化、多世代交流空間の確保 ・これまでの区画整理・福祉施設等整備により人口増加しつつあり、鉄道高架化により東西の地域分断も解消されたことから、今後は、新旧住民並びに子どもから高齢者までの多世代住民が交流できる空間を確保する。 ・地域コミュニティの醸成を通して、新市街地の防犯・防災等に対応した地域ぐるみの組織活動を推進していく。 ■ 基盤整備によるまちの変化への対応 ・区画整理事業等により、街並みが整備され、地域住民の快適性が向上する一方で、駅周辺の放置自転車への対応や、新設道路の通行者の安全策などの新たに発生する問題も懸念される。今後は、整備されたハード面に對して、良好な住環境維持のための方策によるソフト面でフォローしながら、住みよいまちづくりを確立していく。